

2014.5.11~14

第 79 回日本温泉気候物理医学会・総会・学術集会      会場 国立京都国際会館

## 発表抄録 H-5 東洋医学・物理療法

### 身体の治す力・調節する力を高める仕組みに関する研究（１） 一 下腿・足部にある仕組みについての仮説一

The mechanism of The physical stimulation, which promotes the resilience and the homeostasis mechanism of our body (1) -A hypothesis of the mechanism at the lower thighs and the feet

西條一止<sup>1)</sup>、森 英俊<sup>1)</sup>、羽生一予<sup>1)</sup>、森澤建行<sup>1)</sup>、渡邊真弓<sup>1)</sup>、  
山下和彦<sup>2)</sup> 中條 洋<sup>2)</sup> 中村泰治<sup>3)</sup> 喜田圭一郎<sup>3)</sup>

1) 国立大学法人 筑波技術大学

2) (学) 平成医療学園 宝塚医療大学

3) サウンドヒーリング協会

#### 「研究の背景」

演者等は、1991 年に副交感神経機能を主体的に高め両自律神経機能が高まって、身体の調節する力・治す力が高まる仕組みを明らかにした(M4)。

#### 「目的」

今回は、足部・下腿にある「身体の治す力・調節する力を高める仕組み」を観察する。

#### 「方法」

実験対象は成人男・女 20 例である。生体反応の指標は、自律神経機能を MP36 (BIOPAC Systems.社製)を用いて瞬時心拍数で行い、立位体前屈で腰部可動域を観察した。10 例には椅子坐位で、利き足を他下肢の膝の上に置き足底を実験者が 50 回叩打した。

別の 10 例には椅子坐位で、両足底をサウンドヒーリング協会の小型体感音響クッションの上に置き 2 分間体感音響刺激を行った。刺激前後に立位体前屈を計測し、刺激前後、刺激中の瞬時心拍数を計測した。

#### 「結果と考察」

①足底への体感音響刺激により、刺激中に交感・副交感神経機能を高める反応を 10 例中 8 例に観察した。また、刺激前後での立位体前屈による反応は 10 例中 8 例に反応が大きくなった。

②足底への叩打刺激により、刺激中に交感神経機能を高める反応を 10 例中 7 例に、副交感神経機能が高まる反応が 3 例に(他の例に抑制はない)観察した。また、刺激前後で立位体前屈による反応は 10 例中 8 例は反応が大きくなった。

#### 「結論」

足部への刺激で交感神経が主体となる身体の調節する力・治す力を高める反応の手応えを観察した。